物価上昇圧力が一段と強まる結果となった、米CPI

ポイント① CPI、2月も約40年ぶりの高水準

3月10日に発表された2月の米CPI（消費者物価指数）は前年同月比で7.9%の上昇と、1月に続く、約40年ぶりの高水準を記録しました。また、変動の大きいエネルギーと食品を除くコアCPIも、前年同月比で6.4%上昇し、FRB（米連邦準備制度理事会）が物価安定の目標に掲げる2%の水準を、11ヵ月連続で上回りました。なお、前月比ベースでも、CPIは0.8%、コアCPIは0.5%の上昇となっており、米国のインフレ圧力は一段と強まる事態に陥っています。

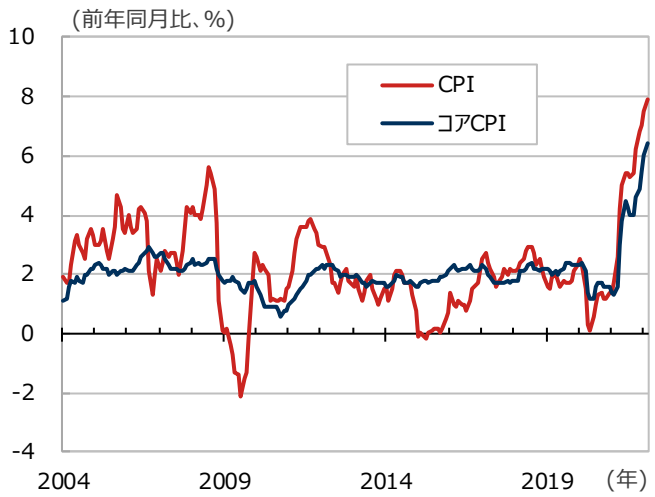
ポイント② 項目別ではガソリン価格が急騰

項目別では、家庭用電気料金など、前月比で低下した項目も一部見られましたが、大半の項目で価格の上昇が続いています。とりわけ、ガソリン価格は前月比で6.6%上昇し、CPI全体の前月比上昇分の約1/3を占めた格好となりました。ロシアによるウクライナ侵攻を受け、現在も同価格が急騰していることを踏まえると、来月発表のCPIではさらなる上振れが予想され、今後のCPIを高止まりさせる大きな懸念事項といえそうです。他方で、持続的な物価上昇要因ともされる帰属家賃も、前月比で0.4%上昇する結果となりました。

ポイント③ 米10年債利回りは一時2%台に上昇

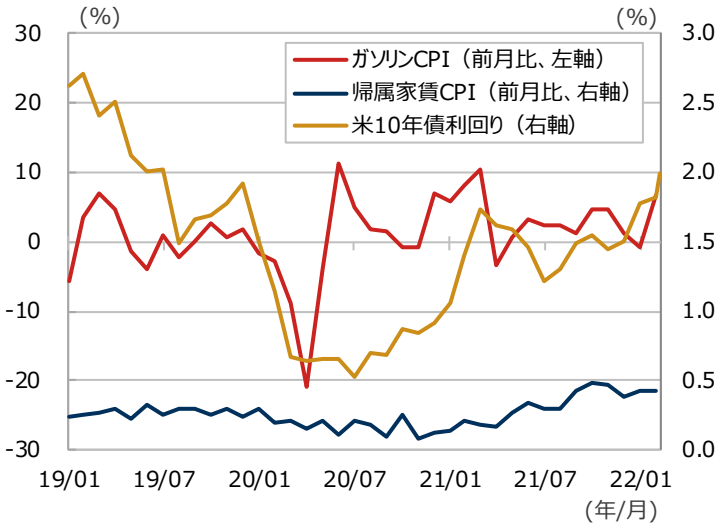
市場では2月のCPIを受け、「FRBが継続的な利上げに動きやすくなる」との見方が広がり、米10年債利回りは一時2%台まで上昇しました。ただ利上げ幅やバランスシートの縮小を巡っては、足元のウクライナ情勢が景気を停滞させるとの観測もあり、15-16日に開催されるFOMC（米連邦公開市場委員会）では慎重な判断が下される見通しです。

米消費者物価指数の推移



期間： 2004年1月～2022年2月、月次
（注）コアCPIはエネルギー、食品除く
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米消費者物価指数（ガソリン・帰属家賃）と米10年債利回りの推移



期間： 2019年1月～2022年3月（ガソリンCPIと帰属家賃CPIは2月まで、米10年債利回りは3月10日まで）、月次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要イベント		
	3月16日	米小売売上高（2月）、米金融政策発表
	3月17日	米鉱工業生産指数（2月）

NOMURA 野村アセットマネジメント

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。